

社会厚生常任委員会行政視察報告書

平成 18 年 11 月 24 日

- | | |
|----------|---|
| 1. 日 程 | 平成 18 年 10 月 17 日～10 月 19 日 |
| 2. 視察先等 | 兵庫県 たつの市 人口 82,800 人 (H18.4.1.現在)
奈良県 橿原市 人口 125,728 人 (H18.4.1.現在) |
| 3. 視察事項 | たつの市 ・「たつの市はつらつセンター」について
橿原市 ・「リサイクル館かしはら」について |
| 4. 視 察 者 | 一行 8 名
委員 委員長 高橋禧雄 副委員長 安中利男
森山一理 安田憲喜 樋口浩二 関 龍雄
当局 環境課参事 青木敏男
随 行 議会事務局次長 石井信一 |

たつの市

【市の概要】

「たつの市」は、平成 17 年 10 月 1 日に龍野市、新宮町、揖保川町、小津町の 1 市 3 町が合併して発足した。面積は 210.93 k m²で、兵庫県の南西部の西播磨地域に位置している。江戸時代は脇坂藩の城下町として栄え、市内に残る歴史的町並みや、武家屋敷、醤油蔵などの白壁の町並みから「播磨の小京都」と呼ばれている。

合併後は、それぞれの地域の特性を活かしたまちづくりに取り組んでおり、中でも、新宮地域の播磨科学公園都市は上郡町、佐用町の 1 市 2 町にまたがって建設され、世界最高性能の大型放射光施設をはじめ、学術研究機関の集積、粒子線医療センター、総合リハビリテーションセンターブランチなどが整備され、豊かな自然環境の中で、学術研究機能と優れた先端技術産業を中心に、快適な居住環境を備えた国際的な科学公園都市を目指して整備がすすめられている。

【事業の概要】

「たつの市はつらつセンター」について

はつらつセンターは、合併前の平成 14 年 12 月 25 日に旧龍野市により完成した施設で、合併後は現たつの市に引き継がれて新市の健康・福祉・医療の拠点施設としての機能を果たしている。

1. 施設概要及び利用状況

- | | | |
|--------|---------------------------------|-------------------|
| ①工事着手日 | 平成 13 年 9 月 5 日、工事完成日 | 平成 14 年 12 月 25 日 |
| ③開 設 | 平成 15 年 2 月 12 日 | |
| ④敷地面積 | 8,800 平方メートル、延べ床面積 | 5,600 平方メートル |
| ⑥構 造 | 東棟 鉄筋コンクリート造 3 階建 (管理棟、多目的ホール等) | |
| | 中棟 鉄筋コンクリート造 2 階建 (旧保健センター改造) | |

西棟 鉄筋コンクリート造 1階建 (入浴施設)

⑦事業費 約23億5,500万円

【内訳】 ・工事費 1,800,000千円、用地費 449,000千円、その他 106,000千円

⑧年間施設管理経費 (人件費除く：平成17年度実績) 70,268千円

【内訳】 ・施設管理委託料 9,519千円
 ・光熱水費 32,304千円
 ・入浴施設管理運営委託料 (社会福祉協議会へ委託) 20,900千円
 ・その他 (消耗品・修繕費・工事請負費・委員報酬等) 7,544千円

⑨年間収入 22,653千円

【内訳】 ・入浴施設 (はつらつの湯) 使用料 21,909千円
 ・多目的ホール使用料 744千円

※ はつらつの湯の収支

(収入) 約22,000千円 - (支出) 約50,000千円 = (赤字) 28,000千円

2. 入管団体及びその業務

①たつの市健康福祉部健康課 (保健センター本庁部門)

成人・高齢者健康診査・健康相談、乳幼児健康診査・健康相談、介護予防・転倒・生活習慣病予防教室、食生活改善事業、育児相談・支援、健康ウォーキング普及事業、予防接種、はつらつセンター管理

②たつの市社会福祉協議会事務局

居宅介護支援事業、訪問介護事業、在宅福祉サービス、心配ごと相談、ボランティアセンター運営、共同募金活動、歳末たすけあい運動、善意銀行預託、老人福祉センター運営、児童福祉館、ファミリーサポートセンター運営

③すぎな園 (心身障害者小規模通所授産所：たつの市社会福祉協議会運営)

心身障害者の軽作業の職能訓練 (職員3名で、16名が通所)

④子育て学習センター (たつの市教育委員会運営) (インストラクター1名、他1名)

子育て相談・指導、子育て活動・行事、グループ活動

⑤はばたき園 (知的障害児童ディサービス事業：たつの市健康福祉部児童福祉課運営)

在宅障害児への基本動作指導、集団生活への適応訓練・療育訓練
 (指導員2名、幼児15名、児童47名が利用)

⑥揖龍休日夜間急病センター (揖龍保健衛生施設事務組合運営)

休日・祝祭日の急病者診察・治療 (開業時間9:00~22:00、たつの市・揖保郡医師会へ委託。医者2名、看護師2名。H16年度利用者3,250名)

⑦はつらつの湯 (H18.10.1から管理者指定委託：たつの市社会福祉協議会)

一般開放の風呂：利用料 (大人) 300円 (子人) 150円 (高齢者・障害者) 200円

⑧つどいの広場 (たつの市健康福祉部児童福祉課運営)

少子化対策の一環施策。子育て中の親子が自由に集い、育児に関する悩み・相談等が行える場所を提供することで子育て支援を行う。H18.5月開設、NPO法人に運営委託。0~5歳児を対象。

3. 施設の特徴

①筋力トレーニング機器を導入、転倒予防教室、筋力アップ運動教室、自主トレーニング

グ等を実施して、介護予防及び生活習慣病予防を実施

- ②入浴施設を併設し、市民の交流と憩いの場として活用
- ③全館オール電化。太陽光発電設備を設置（使用電力の1%をまかなう）
- ④深夜電力利用の床暖房設置と消毒施設の設置（浴室、幼児のプレイルーム、母子指導室、歯科指導室）
- ⑤マイクロバス（25人乗り）による無料送迎（集団検診、トレーニング教室、はつらつの湯等の利用者：10名以上の団体等）
- ⑥光ケーブルの設置により本庁、各総合支所及び主要出先機関とのIP電話が可能
- ⑦住民票、印鑑証明書の発行

4. 施設の運営方法

「たつの市はつらつセンター運営委員会」を組織し、施設の利用方法、各団体での事業推進を協議し、施設の有効活用、利用上の問題点の解決にあたっている。

委員数 15名（市長が各団体等から1名ずつ委嘱）、任期は2年

5. 今後の課題

- ①多目的ホールに多人数集まる会議等がある場合、駐車場が100台分と少なく来館者に迷惑を掛けている。
- ②「はつらつの湯」の収支が毎年大きな赤字を生じている。現在、利用者の増加及び経費節減を図る施策を検討している。

【所感】

「はつらつセンター」は市民の健康づくり施設として、福祉施設として、休日夜間医療施設として、まさに保健・福祉・医療の連携による安心・安全を提供しており、更には市民の交流、憩いの場としての入浴施設をも備え、たつの市民の拠点施設として大きな役割を果たしていることを実感した。

橿原市

【市の概要】

橿原市は、奈良県のほぼ中央に位置し、面積は39.52km²で、市内の中央部には飛鳥川、西には曽我川が流れている。また、万葉の時代を偲ばせる大和三山（畝傍山、耳成山、香久山）が鼎立し、その中央には約1300年前にわが国初の首都であった藤原宮跡がある。古代から現代まで交通の要衝地として発展し、現在は大阪圏への利便性が高くベッドタウン化しており、中和地域の中心都市として自立的都市形成を目指している。

【事業の概要】

「リサイクル館かしはら」について

ゴミ焼却施設（180t/日）が稼動開始から20年以上経過して老朽化が目立ち、運転管理に支障を来すようになり、また、缶・ビンの分別収集を行っているが、不燃物や粗大ゴミ及び缶・ビンについては中間処理施設が無く民間業者に委託していた。

そこで、平成6年12月に閣議決定された「環境基本計画」や「容器包装リサイクル法」に

沿ったゴミの分別体制に対応し、減量化や資源化、また再生利用を推進しながら、環境に優しいきれいな街、すなわち「廃棄物循環社会」をつくるための施設として「リサイクル館かしはら」を建設した。

1. 施設整備計画からリサイクルプラザ（愛称：リサイクル館かしはら）建設までの経過

- ①平成 7年度 建設に向けて検討開始
- ②平成 8年 11月 施設整備計画案作成
- ③平成 9年 3月 建設用地購入、環境影響現況調査実施
- ④平成 10年 8月 建設工事入札実施、9月建設工事着工
- ⑤平成 13年 2月 竣工、同年4月1日稼動

2. 処理施設の概要（処理棟、プラザ棟）

- ①敷地面積 14,700 m²、建築面積 4,476 m²、延べ床面積 8,361 m²
- ②事業費 4,366,386 千円（内、工事費 3,498,390 千円、用地費 867,996 千円）
※国庫補助金 812,388 千円（補助対象の 1/4）、工事費のうち起償は 2,417,400 千円
- ③処理項目
 - ・可燃物で破砕を必要とするもの
 - ・不燃物で破砕を必要とするもの（家電 4 品目は除く）
 - ・缶・ビン、ペットボトル・プラスチックボトル、新聞・雑誌・ダンボール
 - ・有害ゴミ（蛍光灯・乾電池）
- ④処理能力 47 トン／日（5 時間稼動）
 - ・粗大・不燃ごみは再処理 34 トン
 - ・資源ゴミ処理 ビン・缶 11 トン
 - ・ 〃 プラボトル 2 トン
- ⑤平成 17 年度実績
 - ・ゴミ発生量 一般焼却ゴミ 36,842 トン、破砕・選別処理ゴミ 8,642 トン
 - ・再生資源の総搬出量（処理の上、業者等に渡したもの） 8,704 トン
 - ・有償処理による収入 45,600 千円（缶類、金属類、ビン類）
 - ・処理棟運営委託料 170,000 千円（全面委託、所長以下 31 名）
- ⑥プラザ棟

市民参加の資源環境型社会の実現を目指して設置された棟で、生活とゴミの関わりを映像を通して紹介する「スタジオくるりん」、家具や自転車の修理・修繕をして低廉な価格で市民に還元する「再生品工房&展示コーナー」、牛乳パックからハガキを作る紙すきやガラスリサイクルの体験ができる「リサイクル体験工房」などが配置されている。

【所 感】

「粗大ゴミ」「不燃ゴミ」、資源ゴミの「缶・ビン」「プラスチックボトル」の 4 系統の処理が、全て自動処理される施設は圧巻であった。更に、プラザ棟におけるリサイクル工房の運営やリサイクル品の提供、また児童・生徒に対する啓蒙活動によってプラザ棟への来館者が年間 8,610 人もあること。そしてこの施設が出来たことでゴミの減量化率が 25%にも上り、同じく資源化率が 18.6%ということで、市民のリサイクル活動の拠点となる再資源化施設だということがよく分かった。ともかく素晴らしい施設であった。